

応援、母ちゃん！17

～ 帝王切開レポ ～

たまむら ふみ

玉村 文



1. はじめに

2024年4月18日に第三子を出産しました。37週6日、3336gの男の子でした。我が家は子どもは3人までと決めたこともあり、妊娠出産は今回で最後。最後なので、3

回目の帝王切開について記録しておこうと思ひ、今回の原稿にまとめました。「自分の帝王切開を見た」というレポートは、医師で漫画家のさーたり氏の漫画で読んだことはありましたが、まさか今回自分もそれを体験できるとは。気分はブラックジャックの

ようでした。

2. 予定帝王切開までの道のり

過去2回の出産が帝王切開だったので、今回の出産も予定の帝王切開になりました。ということで、事前に予定日が決まっていました。わたしの場合は、過去の帝王切開の傷跡部分の子宮が薄くなっていること、お腹が張る頻度が上がってきたこと、胎児が下がってきていることから、医師から安静の指示と張り止め薬の処方を受けていました。帝王切開の予定日を早めるかどうか医師と検討していました。前回のお産のとき、予定していた帝王切開の日よりも二週間も早く陣痛が始まってしまい早産で出産、そのためか子どもの発達が遅くクリニックに通った経過もあったので、今回はできるだけお腹の中で胎児を育ててから出産したいことを伝えていました。予定日までは慎重に安静にして過ごすことを心がけていましたが、内心はハラハラしていました。

安静にしながらも、出産後しばらくできないこと、やっておきたいこともありました。映画館で映画を見る、美容院に行っておくのはその代表的なことです。また産休に入ったことで、ママ友とランチ行ったりもできました。「自分時間」を確保しながら出産まで過ごしました。

出産にあたってわたしが入院する期間、北海道から義母が我が家に来てサポートを受けました。上の子二人のお世話などをお願いしました。子どもが増えるにつれ大人の手がより必要になります。もちろん親がメインで上の子達の世話をしますが、

わたしが入院中、夫は仕事と両立しながらワンオペ育児はしんどい。そもそも夫の場合、定時帰りだとしても保育園のお迎えに間に合わないという問題もありました。今回は、産後ケアサービスにも申し込みをし、実母や義母のサポートをお願いしました。それは、あらゆる手を借りて出産及び産後を乗り切れるための準備でした。子どもが増えるにつれて、意識的に他者やサービスを頼るようになってきました。

3. 手術日

～気分はブラックジャック～

手術前日の4月17日(水)の夕方から入院しました。手術日の18日(木)は絶食で、点滴を開始。輸血する可能性もあったため、点滴とは別の腕に点滴ライン(ルート)を取っておきました。手術は19:30開始だったため、それまでは点滴をしながらTVを見たり漫然と過ごしていました。

帝王切開は手術のため立ち会いが必要だということで、今回は実母に立ち会いをお願いし、彼女は18:30頃に来院、コロナ検査を受けてから手術時間まで一緒に過ごしていました。過去2回の帝王切開は夫が立ち会ってくれたのですが、今回夫は子ども達の世話のため自宅にいました。

手術開始時間の19:30になると、自ら歩いて手術室まで行きました。その後裸になり、手術台の上に寝転びます。この手術台が結構狭い、落ちないようにと毎回ハラハラします。そして、局所麻酔をするために、体をエビのように丸めます。臨月のお腹は大

きくてこのポーズをするのに苦労しますが、看護師さんがぐっと支えて丸めてくれました。背中に麻酔の注射をし、仰向けで大の字に寝かされます。両腕は固定され、点滴につながれました。体の上にお腹の部分だけ空いたシートが被され、膀胱カテーテルをつけたところで、執刀医が入室してきました。

～帝王切開の観察～

手術室で使う天井から照らしているライトは無影灯といって、術野を見えやすくする医療用照明です。その丸いライトがたくさんついている照明の縁に反射して見える術野。視力回復をした目でははっきりと術野が見えました。これまで開腹手術なんてドラマや漫画などでしか見たことがなく、内蔵なども見たことはありませんでした。もちろん自分の身体の中も、健康診断レベルで見る範囲でしか見たことはありませんでした。

自分の帝王切開を照明器具の反射で見て衝撃だったことは、お腹の中の切り方です。メスでスーッと切るのは皮膚だけで、その下の脂肪や子宮は少しずつ切るので、過去二回の既往がありますので、癒着している部分も丁寧に少しずつ剥がしていかれました。切るというよりもハサミで少しずつ断つようなイメージでした。少し切っては止血を繰り返す様子がしばらく続きました。そして、子宮を切っていくとゴポットと言って羊水が溢れ出してくる場面も衝撃的でした。その後子宮を広げて赤ちゃんを取り出すまで、体感としてはお腹の上で餅つきをされているようなグイグイ引っ張られている感覚がありました。医師が子宮の中に手

を入れて吸引器を入れ赤ちゃんの頭につけ引っ張り出すと、赤ちゃんが大きな産声とともにお腹から出てきました。赤ちゃんが出されたあとに、臍帯と胎盤が出てきます。これらの色や形状の生々しさと、赤ちゃんに栄養を送る装置を身体が作る機構に衝撃を受けました。それは、赤ちゃんの誕生とはまた違う感動でした。

今回、部分麻酔で意識があったため、自分の帝王切開を見るという貴重な体験ができました。不思議と怖いや気持ち悪いといった感情は起こりませんでした。「すごい、こんな風になっているのか」という興奮の方が大きかったです。ですが、手術は手術。赤ちゃんが生まれた後の処置から少しずつしんどくなってきて、呼吸が乱れたり酸素を吸いすぎて過呼吸のような症状が出たりして、やっぱり今回で帝王切開は最後だと強く思いました。

4. 術後

～回復までのプロセスと子育て～

手術の準備を含めた開始は19:30で終わりは22時頃でした。癒着などもあり通常より時間がかかっている方だと思います。手術が終わると、服を着せてもらい、ストレッチャーで移動、個室のベッドに寝かされました。そして、足には血栓予防のための装置が装着されました。麻酔が聞いているため痛みはないのですが、下半身は全く動かせないためベッドで横たわったまま、腕を伸ばして届く範囲に置いておいたりモコンでTVを見たり、水を飲んだりして、少し寝たりしながら一晩過ごしました。

だいたい術後一日目に、歩行ができるようになります。自力でトイレに行けるようになると膀胱カテーテルを抜いてもらいます。ご飯もおかゆから食べられるようになってきます。わたしの場合は、麻酔のせいかなにしびれが残り歩行ができるようになったのは術後二日目でした。歩行ができるようになるといっても、最初は生まれたての子鹿のように、点滴台を支えに少しずつしか歩けません。お腹も痛むため、前かがみになって少しずつ動きます。寝返りも激痛が伴うため、退院まで電動ベッドを操作しながら、お腹に力をかけずに起き上がったたり体勢を変えたりしていました。

入院は出産日を0日として7日間が基本とされていましたが、経産婦の場合は医師の診察で可能と判断がされた場合1日前に退院することもできました。わたしは上の子達のことを気になっていたので、1日前に退院することにしました。退院したその日の夜から、上の子達の寝かしつけや添い寝を開始したため、入院していた方が身体的には負担が少なかったように思います。退院後には子育てと身体のケアとの両立が始まります。寝ている状態から起き上がるのに痛みを感じなくなるまで二週間ほどかかりました。

帝王切開の傷の痛みだけでなく、大きくなっていた子宮が元の大きさに戻る後陣痛と言われる痛みもあります。後陣痛は出産を重ねるほどに痛むと言われていますが、これがうずくまりたくなるほど痛い。後陣痛が起こるとすべての動きをストップして耐えるしかありません。この痛みはロキソニンなど効きませんでした。

5. さいごに

「自分の帝王切開を見た」というと、驚かされたり、よくそんなことができるねと恐がられます。帝王切開は回数を重ねると子宮破裂の可能性が高まるため、一般的には3回程度までと回数を重ねない方が良いとされています。わたしも子ども3人共に帝王切開での出産だったので、今回で最後だと決めました。ですので、最後に貴重な体験ができたことを嬉しく思います。帝王切開は麻酔が効いているから痛くない出産だと言われることも多いのですが、術後の痛みは大きく身体の回復にも時間がかかります。なんせ50cm、3キロの赤ちゃんを出すために、20cmほどお腹を切るのですから。